

研究・調査報告書

報告書番号	担当
591	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol-related mortality risk in natural and non-natural death cases. 自然死および非自然死症例におけるアルコール関連死亡のリスク	
執筆者	
Toro K, Dunay G, Rona K, Klausz G, Feher S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Forensic Sci. 2009 Nov;54(6):1429-32. Epub 2009 Sep 25	
キーワード	
法科学、血中アルコール、事故、自殺、自然死、階層化対数線形モデル	
要旨	
目的： 非外因性突然死においてアルコールの影響の関与の有無を論じることは法医学上の難問の一つである。本研究の目的は、法医学解剖例においてアルコール影響例の有所見率 (prevalence) を検討することである。	
方法： 我々の研究対象の自然死および非自然死 5496 症例 (男性 4045 例、女性 1451 例) を対象とした。ヘッドスペース・ガスクロマトグラフィー法にて血中アルコール濃度 (Blood Alcohol Concentration: BAC) を求めた。階層化対数線形モデルを用いてアルコール関連死亡を検討した。	
結果： 高度な BCA が認められたのは、65 歳以上自殺者 (対数変換 F 値=0.442) および 40-65 歳の殺人被害者 (対数変換 F 値=0.234) であった。死亡様式と性とは相関が認められ、それによると男性では事故の率 (対数変換 F 値=0.140)、女性では殺人の率 (対数変換 F 値=0.193)、が比較的高かった。	
結論： 正確な統計に基づく死亡データベースは、ヒトの健康および死亡に関するアルコールの影響を論じる際に大いに役立つことが示唆された。	